

いけばなに 親しむ

いけばなは伝統的な日本の芸術のひとつとして
茶道とともに発展してきました。
さまざまな流派がありますが
ここでは、本県の代表的な7流派の作品をご紹介します。



そう げつりゅう
草月流 こばやし ゆう か 小林 幽霞

花材/けむりの木、てっせん、ギガンジウム、
アクリル棒

草月流派は1927年に勅使河原蒼風により創流され、2017年に90周年を迎えました。草月のいけばなは「いつでも、どこでも、誰にでも」そしてどんな材料を使ってもいけられるということを特色にしています。

植物は自然の物ですが、「いけばなは、いけた人のものである」という理念を根本に置いています。いけばなは、心を整えられます。今の時代だからこそ、自然界の植物に触れる心地よさを、もっと多くの方に知っていただきたいと考えます。

しゅん そうりゅう
春草流 しら さわ しゅんそう 白澤 春草

花材/椿、ホソバルスカス、カラー、
カスミソウ、ゴールドスティック

春草流いけばなは、日本古来のいけばなの良さを生かしつつ、現代の美意識に基づいています。色彩と植物の造形美を追求し、生活に合った自由で創作的ないけばなを理想としています。

いけばなは見て楽しみ、いけて楽しむものです。形式や決まり事などを難しく考えがちですが、初心者でも、はさみと剣山があれば気軽に始められます。はさみは、茶華道具店、またはホームセンターで購入するとよいでしょう。本格的な花器がなければ、食器や小ぶりのボールなどを利用する方法もあります。

いける時に大切なことは、花材をきちんと水揚げすること。いけた草花や樹木がみずみずしい美しさを失わずに、長くきれいな状態を保つことが、お花を飾り、おもてなしをする人の心尽くしなのです。水揚げは何度してもよいので、買った時はもちろん、いける時も、水切りをしながらいけていきます。

いけ方は、流派によって異なりますが、本格的にいけばなを習いたいと思ったら、まず、いろいろな流派の展示会を見に行きましょう。生涯学習の一環として、公民館

などで開かれる講習会に出かけて、いくつかの流派のいけ方を体験するのもいいでしょう。自分の感性に合った流派がきっと見つけれられると思います。

